## 目標

- 文章の中心的な部分に着目し、内容を捉える。
- 文章の構成を捉え、要約に生かす。
- 「脳の奇妙な癖」を理解し、筆者の考えをまとめる。

## 自分の脳を知っていますか

**池谷 裕二** 

食堂で何を注文しようか、次の休日に何をしようか、 将来はど

んな仕事をしようか― 私たちは生活の中でいろいろなことを

決断しています。

ります。 何かを決断するときに、参考になりそうな要素はいくらでもあ あれこれ全てを考えていては際限がありませんから、参

**まま**ず

34 - 1

- A4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。

90

B は、

置き方が異なりますが、

同じクッキーです。この場合、

クッキーAとクッキ

癖

意

要 素

意 際限

類 奇妙 その場で最も適切と思われる要素を、人はどのように選ぶので 考にすべき要素を選びながら決断しなくてはなりません。では、

91

でしょうか。この疑問を問うことで脳の奇 妙 な癖が理解できま ようか。それには、 脳のどのようなはたらきが関わっているの

す。

実験①では二枚のクッキーがあり 次の実験例を見てみましょう。大好きなクッキーを選ぶ実験で ます。

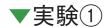
す。

35

当

自分の脳を知っていますか

- A4の用紙で印刷してください。
- 点線で切ると実際の大きさになります。







クッキーB

## ▼実験②







クッキーC クッキーB

*)* / 1

35 - 2

然ですが両者は半々の割合で選ばれます。

- 92
- ・A4の用紙で印刷してください。
- ・点線で切ると実際の大きさになります。

を比較して、少しでも得なほうを選ぼうとします。ここでは、 選ぶ人が増えます。これは「おとり効果」と呼ばれます。ここで 断を変えてしまう現象です。 ることのないクッキーCですが、そこに存在することで、人の判 は、クッキーCがおとりの役割をしています。それ自体は選ばれ 目で判断できる要素である、「幅」と「高さ」に着目します。 たらどうでしょう。さすがに小さなクッキーCを選ぶ人はいませ んが、意外なことに、クッキーAを選ぶ人が減り、クッキーBを では、 なぜこのような判断をするのでしょう。ヒトはいくつかの要素 実験②のように、新たにクッキーCを並べて、三枚にし

36 - 1

- ·A4の用紙で印刷してください。
- ・点線で切ると実際の大きさになります。